

かごしまフロッワー
かごフォロGMOペパボ(株) 代表取締役社長
佐藤 健太郎 さん

【広報課 ☎216-1133 FAX216-1134】



本市出身で、国内最大級のハンドメイドマーケット「minne(ミンネ)」をはじめ幅広いITサービスを展開し、鹿児島でのIT人材の育成にも力を入れる佐藤健太郎さんにお話を伺いました。

中学校の先生が使っていたパソコン(マッキントッシュ)がかっこいいなと思いパソコンに興味を持ち始めました。高校では、1人1台持たされたポケットコンピュータを使い、自分で本を見ながら初めてプログラミングをしました。大学では、経営を学び、元々ビジネスをやりたい、何か面白いことをやりたいと思っていたので、大学4年のときに仲間の誘いで起業に参加し、2008年に上場、会社の規模が拡大する中、社長になりました。

鹿児島でIT人材を育てていきたいと考え、4年前に鹿児島オフィスを設立。鹿児島オフィスに所属するメンバーが初めて立ち上げから関わった「GMOLenShu」は、連絡(お知らせ配信)や集金ができるシステムで、市内の町内会の一部で実証実験中です。初の成功事例として鹿児島から全国に広がってほしいと考えています。



鹿児島オフィスにて

情報発信が全ての起点だと思うので、今後は、鹿児島の情報発信量をもっと増やすお手伝いをしていきたいです。ちなみに私自身も、鹿児島をテクノロジーで盛り上げようとの思いから、SNSで #勝手に鹿児島大使 として発信を続けています!
(インタビューの詳細は広報課Instagram「カゴシマファン」などでチェックを)

動物ふぁいる No.69
生き物ずかん平川動物公園
カイウサギ

【平川動物公園 ☎261-2326 FAX261-2328】



ヘア ラビット

ウサギは「ノウサギ(hare)」と「アナウサギ(rabbit)」に分けられます。ノウサギは茂みの中で出産や子育てを行い、警戒心が強く、長い耳で危険をすぐに察知します。一方、アナウサギは鋭い爪を持ち、土を掘ってトンネルのような巣の中で出産や子育てを行います。

短めの耳と真ん丸な目でペットとしても人気の高いカイウサギは、体長は40cmほどで、乾草やウサギ用ペレット、野菜などを食べます。ヨーロッパにすむアナウサギを家畜化して飼いならしたもので、アナウサギの一種ですが、土の中で出産や子育ては行いません。出産が近づくと母親はお腹の毛を抜いて敷き詰め、その上で出産します。

当園でも多数飼育しており、ふれあいランドで見ることができます。毛の色や目の色もさまざまで個性豊かなので、お気に入りの子を見つけてみませんか?

ひろばサポーターがゆく

みんなで盛り上げる
わくわくの冬

【広報戦略室 ☎803-9547 FAX216-1134】

マグマ×食で寒い冬を“アツく”

この冬を盛り上げるマグマシティプロモーションの取材内容を、私が描いた「バーチャル応援サポーター『木花桜子』」が紹介します。

焼き芋が恋しくなる季節に、2年ぶりに「マグマやきいも電車」が開催されました。4種のおいしい焼き芋を、市電で市内を巡りながら味わえる大人気企画です。

今年は、「辛い、赤い、山盛り」を特徴とした「マグマ飯」が14の飲食店で提供される関連イベントもありました。

この企画を監修した、Webメディア「カゴシマニアックス」を運営する中園さんは、「観光や食を通じて鹿児島を盛り上げる人はもちろん、活火山桜島と共生し、噴火時に備え日夜頑張る人たちも注目されるきっかけになれば」とマグマのように熱く語ってくれました。飲食店「日本橋天井 一心」さんでは、マグマ飯「桜島チーたまサーロイン天井」を提供。「天井の革命と言っても過言でないものができたと思っているので、ぜひ色んな方に食べてほしい」という店主の思いやこだわりを聞くことができました。

ひろばサポーター
まむねむこ

バーチャル応援サポーター 木花桜子



@isshin_tendon

鹿児島のおいしいがギュギュっと詰まったマグマやきいも電車とマグマ飯。さまざまな人の熱い思いが重なり、鹿児島市の魅力を再発見するきっかけになりました。企画は終了しましたが、皆さんが楽しんだ様子をぜひチェックしてみてください。

マグニオン公式
Instagram学芸員オススメ! No.87
市立美術館の逸品

オシップ・ザッキン『オルフェ』

【市立美術館 ☎224-3400 FAX224-3409】

大胆なデフォルメで神話の一場面を表現

美術館の前庭にある高さ3mのブロンズ像を見たことがありますか? 大きくデフォルメ(変形)されていますが、これはギリシャ神話に登場するたて琴と歌の名手オルフェウスをモデルとした人物像です。作者であるザッキンは、対象を単純な図形で表現するキュービズムの影響を受けており、20世紀前半における前衛彫刻家として、主にパリで活躍しました。

神話の中で、愛する妻を亡くしたオルフェウスは冥界に下り、得意のたて琴を奏でて妻の蘇生を懇願します。地上に戻るまで後ろの妻を振り返らなければ生き返らせると約束してもらいましたが、妻の姿見たさにあと少しのところで振り向いてしまい、望みは叶いませんでした。上半身をひねって後ろを振り返るポーズは、まさにその場面を表しています。たて琴を抱え悲痛な叫びを上げる姿は、自身の胸をかき鳴らしているようにも見え、約束は守らねばならないが一刻でも早く姿を見たいという理性と情動の間で引き裂かれた人間の心情が伝わってきます。

